



わかば

2020. 2. 1

(令和2年)

第19-38号

文責 校長 信國 寿敏

ホームページ <http://www.shokookai.org/gakkou.htm>

毎週火曜日更新

教育目標 「帰国後、日本の教育に円滑に適応できるよう、日本の学校における学習指導要領に沿った国語、算数(数学)の学力の維持、併せて生活・生徒指導を行う。」

重点目標 **一人一人が輝く教育** ～期待登校・満足下校～(2年次)



【右】休み時間に幼稚部の前を通ると賑やかな声があり、覗いてみました。積み木、ブロック、お絵かきなど数名ずつが頭を寄せながら、楽し気な時間でした。写真は、誰が一番長く回転させることが出来るかと競っている男児です。ふたと玉だけで十分に楽しむ子どもの発想力に感心します。

【中】これも中休み、1, 3年生の教室あたりです。この時期は雨やジムの制限もあり、思いっきり遊ばせることが出来ず申し訳なく思っています。狭い空間をうまく生かしながら、タッチしたら鬼役になるゲームを楽しんでいる様子です。写真では、歓声は届けられませんが、「ちょっと、静かに!」と言いたくなるのですが、けがなくほどほどに遊ぶ子どもたちにまた感心します。

【左】久しぶりに作品の掲示をしました。早速、作品を書いた6年生5, 6人が目ざとく見つけ、お互いの作品の寸評を始めました。お互いの作品を見るなどの経験を通して、自他を尊重することは大切だと思っています。新たな気づきが自己の成長となることを願っています。



わかば掲載の予定・・・卒園生、卒業生の写真やコメントを掲載していきます。

早くも2月を迎えました。7週間後は、卒園式、卒業式です。例年、この期に卒園生や卒業生の記事を掲載しています。本年度も下記の日程で紹介していく予定です。

なお、全員出席しての写真を撮ることが難しく、一部のお子様は丸囲みの写真となる場合があることをお許し願います。ご理解のほど、よろしくお願いいたします

卒園生、卒業生のわかば掲載スケジュール

①高等部3年	2月 8日(土)	集合写真	+	卒業の言葉
②幼稚部	2月15日(土)	集合写真		
③小学部6年	2月22日(土)	集合写真	+	卒業の言葉
④中学部3年	2月29日(土)	集合写真	+	卒業の言葉



児童生徒の作品紹介33



今回は、1、2年の「冬」をテーマにした作文、3年、6年の俳句や短歌をご紹介します。
校長 信國 寿敏



1年生 作文

中村 柊太

ぼくは、きょうスノーボードをしました。ゆきの上をすべりました。はじめは、ゆきがふつていてとてもさむかったけど、とてもたのしかったです。



パウアー 美莉愛

わたしは、サンタさんからアイパッドをもらいました。いもうとがもらったのは、プリンセスです。

ほかにたくさんおもちゃをもらったので、あそぶのがたのしみです。



中西 理咲

きのう、サンタさんがきてくれて、カメラをもらいました。すごくうれしかったです。サンタさんにクッキーとにんじんをあげました。そして、エルフがいなくなっていました。



目覚めたら目の前に念願のプレゼントがあり、興奮状態になったことでしょうね。サンタさんへの感謝の気持ちが、「きてくれて」や「もらいました」に込められているようです。スノーボードをした喜び、楽しさが一気にタイムスリップさせ、時を超えた「きょう」の言葉に表れているように感じます。

2年生 作文「冬がいっぱい」から

「つばき」

小畑 雅晴

ぼくの家のげんかんの前につばきの花がさきました。はっぱがかたくてうじゃうじゃしていました。花の色は、黄色と赤むらさきで、はっぱのうらは、黄みどりで、おもてはみどりで。

うじゃうじゃしているの、いつかはつばきを切りたいと思っています。

「こおり」

竹内 晟

このまえ、りょうこうに行ったとき、水たまりがこおっていました。ぼくがすべってみると、ころびそうでした。ぼくの弟は、ころんでしまいました。

ぼくは、それをみて、「冬だなあ」と思いました。

「ポインセチア」

宮 美琳

わたしのお母さんはスーパーでポインセチアのはちうえをかってきました。赤い花とみどりのはっぱがとてもきれいです。十二月になると毎年お店にならびます。

この花を見ると、「クリスマスがちかいなあ、ふゆだなあ」と思います。



「こたつ」

クラーク 琉音

あたにかいこたつに入って、おいしいみかんをみんなで食べると、

「冬はやっぱり、こたつにみかんだな」と思います。

「ゆきあそび」

ホフマン 絵里奈

ゆきがふったら、ゆきだるまをつくれます。ゆきうさぎもつくれます。かまくらは、おおきくてつくるのが、たいへんです。

でも、さむくなったら、おうちであたたまります。かぞくでテレビを見ます。



子どものころは、雪がふると嬉しいものでした。雪合戦や雪だるま、雪を足で踏み固め走りこんで滑ってみるなど、雪一つで誰もが遊びの天才ぶりを発揮したものです。

雪が積もった椿、温かな部屋のこたつ、華やかさのあるポインセチアなど、子どもなりの観察力がいいですね。



3年生 国語 「カンジー博士の音訓かるた」から

【鮎澤先生のコメント】音読みを使った言葉と訓読みを使った言葉を一つずつ使って、ひとつながりのリズムのよい歌を作りました。

南 友里絵	鳥が鳴く みんな大声 悲鳴した
古屋 慈	軽食だ ほんとに軽い 食べたいな
小林 タイラー	野球して 球が切れない もういやだ
東 有彩	春の時 木花植物 植えてみる
佐々木 ゆい	空港で ひこうきに乗り 空の旅
中島 陽太	教室だ 教えてもらい さようなら
山田 晃太郎	山田君 ふじ山登って すばらしい
メイデン カイリー	羊毛の 羊毛の毛だ ふわふわだ
熱海 太郎	山登り 石に転んで 回転だ
奥田 竜ノ介	神様が えい画館行き 神話見る



「石」は、音読み、訓読みで「いし」「せき」となります。子どもたちの歌を見ると、音読みと訓読みの漢字が巧みに作られています。五・七・五のリズムを意識しているので、大変だったのだと思います。カンジーはかせに負けられないように頑張ったみたいですね。よくできています。お見事！！。

※補足 木花(読み方:コノハナ(konohana)ウメの別称)

6年生 俳句や短歌

黒堀 結衣	立冬だ 冬の楽しみ 期待する
豊田 アンナ	大雪だ 雪が降ったけど とけちゃった
田代 寛人	大寒の ころにはみかん うまいかな
関根 有美子	冬至だな 夜が長すぎ ねすぎかな
小藤 魁	冬なんだ 冬なんだなあ 冬なんだ
奥田 涼介	立冬は こたつの中で みかん喰う
吉田 理沙	冬至の日 太陽早く 帰っちゃう
神田 宏平	思い出を 胸に刻んで 中学へ
太田 野乃	部屋いっぱい かぼちゃの香り 冬至の夜
高宮城 昊志	友達と 経験つんだ 六年間
	大寒の ぬくもり手のひら こたつかな
ブライnz 朋生	大雪だ 雪が降ってる 外でよう
山村 ジョナ洋志	小寒 春心あり 雪とける
飯田 カンナ	大雪だ 白刃の世界 息を呑む
	願いがかなう 白い魔法
タニー 美麗	見上げると まだ秋の気分 立冬も
	こよみの上で 冬始まる



冬至は、二十四節気の一つで、一年中で昼がいちばん短く、夜がいちばん長くなる日です。この日にはゆず湯に入ったり、地方によってはカボチャを食べたりする風習があります。確かに、この時期は、浴場などはゆずがプカプカと浮き、いい香りがして気持ちがいいものです。

立冬も二十四節気の一つで、冬の始まりを意味します。立冬と立春・立夏・立秋を「四立(しりゅう)」と言い、季節の区切りとされています。(ネット情報から)

これらのことを先生から学んだり調べたりして、この冬や日本文化、季節感覚、感性を俳句や短歌で育んできているようです。現在、カフェテリアに掲示しているので、お楽しみください。



日本放送協会賞

紅海

ジッダ日本人学校（サウジアラビア）

中三 平田 愛

鼻をくすぐる海の匂い
塩の味が体にしみる
さざめく白波
私の体を運んでいる
シュノーケルを口につけ
ゴーグルをさわって確認する。
1、2、3。
ザブンという音は
もう耳まで届かない。

毛布のように
そっと耳を覆う静けさ
風に揺られるカーテンのように
きらめきゆれる光
宝石のように
光るジッダの紅海

あ、見つけた。
縞模様の
ハナミノカサゴ、キミオコゼ
奇抜なドレスを着ているようだ
「おくさまのドレス、素敵ね。」
「その腕輪、どこで買ったの。」

あ、見て。

ハゲブダイ
虹色に輝く体を
自慢するように
目の前を悠々と泳いでいる。
せわしなく通り過ぎる魚達
スクランブル交差点のように
あちこちでぶつかりそう

「あら、ごめんなさい。」
「こちらこそすみません。」
「おい、どこ見て泳いでるんだ。」
「そちらがぶつかってきたんでしょ。」
そんな会話がふと聞こえる。
ああ、これは魚の街だ。
色とりどりの家が
海底に並んでいる
紅海の海の底に広がる
魚の王国。

パッと顔を上げたら
音が戻ってきた
風が吹き抜け
大空に響く
紅海とその魚達の話し声。



読売新聞社賞

月

上海日本人学校（中国）

中一 鵜沢 元美

夜、上海は光であふれる
建物が星の光を吸い取るように
窓から外を見ると
ライトアップがきれいだった
そこに溶け込むように
日本の窓から見た月が
光っていた。

夜、日本は光であふれる
星が建物の光を吸い取るように
窓から外を見ると
天の川があつた
そこに溶け込むように
上海の窓から見た月が
光っていた。

月の光が
まぶしくてたまらないように
私の心も
光であふれた。